

## ムカシトンボ

岡山県：留意

トンボ目

*Epiophlebia superstes* (Selys)

環境省：該当なし

ムカシトンボ科

## 選定理由

岡山県では、中北部に分布地が点在しており、まだ多産地があるものの、源流域の豊かな自然環境が失われた場所では減少している。

## 存続を脅かす要因

森林伐採、水質汚濁（土砂流入）

## 分布状況

岡山県では北部から南部まで分布しているが岡山県中南部では、古生代から中生代の硬いたい積岩が露出している溪流に限って生息している。特に県南部では生息地は局所的である。

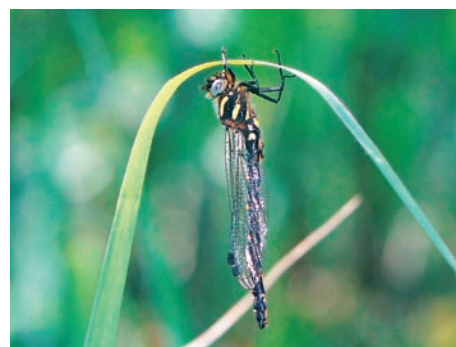
日本特産種で、北海道・本州・四国・九州に分布する。

## 生息情報

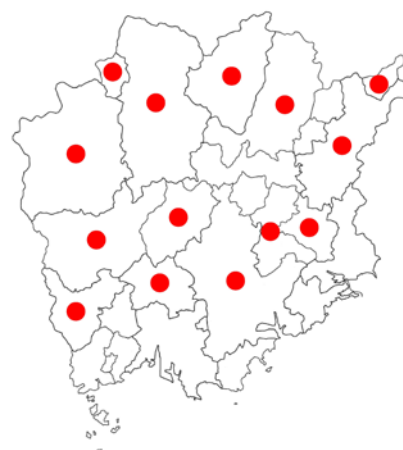
体長は、50mm 前後で、ムカシトンボ亜目の中型のトンボである。本亜目のトンボは、世界でヒマラヤムカシトンボと本種の2種しか知られていない。体色は、黒地に黄色い斑紋が反復されている。幼虫は、森林に囲まれた、水温の低い溪流に生息している。幼虫は、流れの速い瀬の石にへばりついて生活しており、終齢になるまで5～6年かかる。羽化の1カ月前から陸上で生活し、溪流沿いの岩や樹木、草などで午前中に羽化する。岡山県では、5月上旬から6月上旬まで見られる。未熟な個体は羽化水域近くのやや開けた空間で摂餌する。成熟すると、雄は溪流の上を時々ホバリングを交えながら、非常に速いスピードで往復飛翔する。産卵は、雌が単独で溪流沿いの植物やコケなどの組織内に行われる。

文献番号 114, 130, 144, 164, 165, 168, 194, 223, 230, 234, 240

(守安 敦)



撮影：守安 敦



## ネアカヨシヤンマ

岡山県：準絶滅危惧

トンボ目

*Aeschnophlebia anisoptera* Selys

環境省：準絶滅危惧

ヤンマ科

## 選定理由

個体数が非常に少なく、本種に適した豊かな自然環境の池も開発により失われており、個体数が減少しつつあると考えられる。

## 存続を脅かす要因

池沼開発（埋立、護岸工事、その他の池の改変）

## 分布状況

岡山市南部、倉敷市南部、北木島、堅持島で記録がある。

日本と中国中部に分布している。日本では、新潟から南の本州と四国、九州に分布するが、産地は局所的である。

## 生息情報

体長 80mm 前後の大型のトンボで、ヤンマ科ではあるが、腹部がくびれず円筒形なのが特徴である。同属のアオヤンマとは、大きさや体色の違いで区別できる。幼虫は、褐色で細長い紡錘形をしている。平地や丘陵地のヨシなどの背の高い挺水植物が繁茂する池に生息する。幼虫は植物の根際や底にたまった植物性の堆積物の中にかくれている。羽化は、夜半から早朝にかけて挺水植物の茎で行われる。成虫は黄昏飛翔性があり、昼間は林内の枝にぶら下がっている。産卵は、湿地の湿った土や朽ち木に行われる。岡山県では、7月下旬から9月中旬の記録がある。

文献番号 105, 121, 123, 126, 168, 184, 230, 234

(守安 敦)



所蔵：守安 敦

